

祭文

本日ここに、特別攻撃隊戦没者慰霊を挙げるに当たり、謹んで御霊前に申し上げます。

顧みますと、先の大戦が終わりを告げましてから、今年で七十九年目を迎えます。

苛烈を極めた戦いの中、軍人・軍属はもとより、徴用あるいは動員された学徒、その他多くの国民が尊い生命を失われ、また傷つけられましたことは、私たちにとりましても、永遠に忘れることのできない、深い悲しみであります。

特に、都城市内、東と西の両飛行場から出撃された特別攻撃隊の勇士たち、その支援、掩護・誘導に当たられた掩護機の勇士たちの崇高なる心情を思うとき、深い感銘を覚えるとともに、哀痛の思い、胸に迫るものがあります。

これら、最愛の肉親を失われた御遺族の御心情を拝察いたしますとき、誠に痛恨極まりなく、お慰めのことばもありません。

戦後わが国は、ひたすら国の再建と発展に努め、平和と繁栄の道を築き上げてまいりました。本市も恵まれた自然環境のもと、市民の皆様のたゆまぬ御努力により、南九州の産業・経済・教育・文化の拠点都市として揺るぎない地位を築いてまいりました。

本市の輝かしい発展は、英霊諸士の御加護と御遺族皆様方の御支援御協力のためのものであり、衷心より感謝の誠を捧げます。

一方、国外に目を向けますと、自国の利益のみを追求しようとする動きや、宗教や文化、民族の違いによる対立から各地で紛争が引き起こされ、今この瞬間も数多くの命が奪われています。こうした状況を見聞きする度、一日も早く凄惨な争いを終結させ恒久平和を実現できるよう、国際社会の一員として声を上げていかなくてはならないと意を強くする次第です。

本日は、次世代を担う子どもたちの代表として、沖水中学校の生徒の皆様にも参列いただいております。

国民のほとんどが戦後生まれとなった現在、戦争の記憶が次第に薄れつつあるのも事実であります。尊い犠牲と御遺族の今なお憂われることのない深い苦しき、悲しきを決して忘れることなく、悲惨な戦争を二度と繰り返すことのないよう、これからも、末永く後世に平和への誓いを語り継いでまいります。

今日の平和と繁栄の喜びを共に分かち得ないことは、残念に存じますが、私たちは諸士の残された祖国愛、郷土愛を引き継ぎ、わが国の恒久平和と繁栄・発展のために、なお一層の努力を続けてまいりますことをここに誓いいたします。

また、新型コロナウイルス感染症のため長らく規模縮小しておりましたこの慰霊祭が、皆様方の御尽力により五年ぶりに厳粛かつ盛大に挙行されますことを心より感謝申し上げます。

結びに、諸士の御霊がとこしえに安からんことを、また、今後ともわが国の繁栄と平安を見守り給うことを念じ、併せて、御遺族の皆様方並びに御参列の皆様方の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、追悼のことばといたします。

令和六年四月六日

都城市特別攻撃隊戦没者奉賛会
会長 池田 宜永